

『烏寶線鉄道唱歌』の解明と近代後期以降の烏山線沿線地域の変容過程

足利工業大学 工学部 創生工学科 建築・社会基盤学系 4 年
 福島二郎研究室 布施和也 (ふせ かずや)

【地域貢献キーワード】「地方都市」「地域資源」「鉄道唱歌」「要因分析」「地域活性化」

1 はじめに

現在、わが国では、地方都市の衰退が大きな課題となっている。その衰退に歯止めをかけるための手法や方法論を模索しながら、各地において種々多様な取組みが行われている。特に、人口流出に伴う財政基盤の脆弱さが顕著な地方中小都市では、地域資源を活用した地域交流の拡大による観光まちづくりが試行され、大きな資金投入に依存しない取組みとして定着しつつある。一方、鉄道を活用した地域振興への取組みも各地で見られ、恒常的な鉄道ファンの存在を踏まえ注目に値する取組みの一つと言える。本研究では、昭和初期の鉄道に関する発掘資料を基軸として、“地域資源”および“鉄道”をキーワードに、地方都市の地域活性化に向けた手法検討を目的とする。本稿はその第一報として、検討のための基礎資料の作成を目途とする。具体的には、発掘資料である『烏寶線鉄道唱歌』の解明および同唱歌が制作されたとされる昭和 5 年当時の地域様態の復元から、当該地域における当時の地域資源の把握を行う。さらに、近代後期から現在までの JR 烏山線沿線地域の変容過程の分析をとおして、地域の浮沈様態の把握を行う。

2 対象地域と調査概要

対象地域は、烏寶線（現在の JR 烏山線。大正 12 年開設）沿線地域となる現在的那須烏山市および高根沢町である。調査は本研究の目的を踏まえ、以下の方針により実施した。①発掘資料の『烏寶線鉄道唱歌』に詠まれた固有名詞をすべてピックアップし、その区分・分類・諸元・形式等を把握する（固有名詞数 59）。②現地調査として路線全線を踏査しながら前記事項の把握と現況写真を撮る。③文献調査により『烏寶線鉄道唱歌』の歌詞の意味を解明する。なお、本研究は栃木県立烏山高等学校との共同研究として実施しており、調査も共同で行った。図 1 に対象地域、表 1 に調査の概要を示す。



図 1 対象地域

表 1 調査の概要

調査日	2014年8月20日～22日の3日間
調査員	■足利工業大学・布施和也・高橋亮太・岡本竜馬・福島二郎(教員) ■烏山高専学校・池田尚樹・佐藤拓真・鈴木雄太・藤井啓太(教員)
調査項目	■所在地 ■区分(①地名 ②風景 ③景観・景勝地 ④人物 ⑤建造物 ⑥その他) ■分類A(区分①～③) ■参考文献・資料名 ■分類B(区分④) ■歴史上／近現代 ■分類C(区分⑤) ■宗教／教育／産業／交通／通信／土木／その他 ■建造年 ■用途 ■構造形式(木造/RC/鉄骨造/煉瓦造/石造/その他) ■諸元(長さ/幅) ■改築・改修履歴 ■文化財指定等 ■管理者 ■設計者 ■車窓から(見える/見えない) ■調査者所見・特記事項 ■写真(古写真/現在)

3 わが国の鉄道唱歌と『烏寶線鉄道唱歌』の概要

鉄道唱歌は、明治 33 年に大和田建樹（国文学者）が作詞し三木佐助（書店経営者）が発行した『地理教育鉄道唱歌第一集・東海道編』がその嚆矢とされ、このシリーズは第五集まで発行され爆発的な人気を博した。その後、鉄道路線網の延伸に伴い各路線の鉄道唱歌が作られた。本研究で取り上げる『烏寶線鉄道唱歌』は、那須烏山市の知人から入手した 5 枚のコピーである。本研究に際し、この『烏寶線鉄道唱歌』の認知度をはじめとするその実態について調査しているが、現在までのところ歌者の履歴をはじめ当該唱歌そのものの存在等、すべて不明である。しかしながら、詠まれた歌詞を丹念に追いかけて解明することにより、当時における当該地域固有の地域資源や周辺地域の風光等、所謂地域の魅力情報に関わる当時の認識の把握に繋がると考える。表 2 に『烏寶線鉄道唱歌』の全文を、図 2 に“風光復元スケッチ”の一例を示す。

表 2 『烏寶線鉄道唱歌』の全文

烏寶線鉄道唱歌 及川誠二 作歌 昭和5年集録	
1	ゆくてはいづ寶積寺 希望を地史の上にして 春の一日ののどけさを 求めし今日のうれしさよ
2	窓にもたれて朝風を 愛づる折りしも一聲の 汽笛と共に吾が汽車は 烏山をば出でにけり
3	愛宕の山の峯つゞき めぐると思れば蛇塚の 宿もいつしかあとに見て 峽を走る心地よさ
4	麦の緑のそが中に 黄金歌く花ありて 言はずとかたる春の香に 思はず胸の踊るなり
5	瀑音高く緑陰に 響くはこれぞ名にし負ふ 瀧の名所と相待ちて 観音堂のあるところ
6	石のきざはし若むして 慈覚大師開山の 堂宇をめぐる老杉は 雲を掃ふにさもにたり
7	汽笛一聲トンネルに 我等が汽車は入りけり 此處難工の一とこ 延長實に三町餘
8	森田にきこぬし発電所 小橋をすぎて荒川の 流れにわたす鐵橋に かゝれば音のかまびすし
9	かなたに見ゆる山脈の ふもとにひける一筆の 斜めに染めしうすかすみ 高瀬の景の得がたしや
10	いつしか大里あとにして 鎮守ふりむくひまもなく 大金驛につきにけり 驛夫のこゑもほがらかに
11	化石に名ある小河原や 人に知られし十二口 大和久小倉ほど近し 汽車は驛をばいでにけり
12	田の倉校や安楽寺 窓下に青き荒川を 再び右にながめつゝ すぐれば変る峯の松
13	繪にさながらの枝ぶりを 寫眞機に入る者のあり 墨客何ぞ意なからん 詩人はすてこしの峯
14	福岡すぎて鴻の山 長者平は遠けれど 今猶残る馬屋窪 八幡太郎に知られけり
15	窓より近き法康寺 一向宗にぞしられぬ 臺新田の三箇寺は 日蓮宗の古伽藍
16	太田神社を右に見て 左に仰ぐ星の宮 文挾校の庭先を すぐれば早やも熟田驛
17	汽車は煙を吐きたてゝ 今ぞ熟田をいで行く 高根沢また花岡は 野州米てふ名も高し
18	廣袤幾重灌漑の 水路蜘蛛手に分れつゝ さすがは廣き水田に 耕すものはこゝかしこ
19	花岡校や地藏寺を すぎて石末寶積寺 猪湖送電の架空線 鐵槽ならべる一奇觀
20	まもなく来る寶積寺 東北線と交りて 昇降客の多ければ プラットホームは織る如し

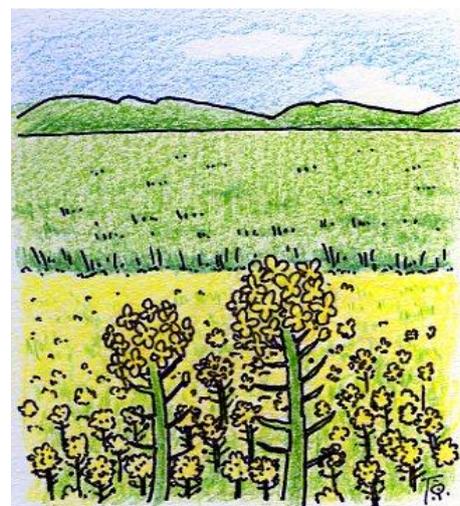


図 2 風光復元スケッチの一例

4 近代後期以降における沿線地域の変容過程に関する分析

唱歌制作以降における地域の変容について、①市街地整備、②小学校と児童数、③電力事業について分析を行った。ここでは、①市街地整備に伴う景観変容について述べる。

図 2 のスケッチの景観は唱歌 4 番で詠われており、現在の烏山駅から野上地区にかけての周辺地域を詠ったものである。この地域における街路事業は、公園通り (昭和 25~36 年度)、旭通り (昭和 29~48 年度) 等が旧烏山町直轄事業として実施されるとともに、表 3 および表 4 に示す栃木県営事業も行われている。また、区画整理や宅地開発事業が旧烏山町および民間により行われている (表 5)。特に、旧烏山町が実施した泉土地区画整理事業では、区画整理地区内の 80% を占める畑地が道路等の公共用地や市街地として整然とした区画変質に伴い、農村景観の喪失に大きく関わったものと考えられる。

5 まとめ

本稿では、昭和 5 年に制作されたとされる『烏寶線鉄道唱歌』の解明を基軸に、当該地域における地域資源の掘起しと、近代後期から現在に至る間の地域の変容過程について分析を行った結果、以下のことが分かった。(1) 自然景観の豊かさと歴史に根差した物語性が地域の大きな魅力になり得ること。(2) 『烏寶線鉄道唱歌』に詠われた個々の地域資源までの距離は駅から歩行距離圏にあること。(3) 地域資源は地域を成り立たせ支えてきたものであり、近代後期以降の地域の趨勢に関わる分析成果はヒストリーツーリズムの検討資料に成り得ること。

今後は、地域活性化に向けた具体的な検討を行う所存である。

表 3 街路事業の整理①主要地方道宇都宮那須烏山線

事業名	事業期間	区 間		延長 (km)
		起 点	終 点	
道路改良事業	H12~H16	鴻野山字荻之平5	小倉坂下1076-1	1.3
交通安全施設事業	H8	鴻野山165-1	福岡534	0.4
道路改良事業(事業中)	H18~	福岡字三百沢652-6	田野倉字休場787-4	0.5
交通安全施設事業	S63	田野倉756	田野倉792-1	0.5
道路改良事業	S48~S62	田野倉774-1	高瀬492-1	2.4
道路改良事業	H11~H24	高瀬字上川原611-1	神長字関下883-1	2.3
道路改良事業	H6~H12	神長字関下883-1	中央一丁目字釜ヶ入774-2	1.6
街路事業	H2~H15	中央一丁目字釜ヶ入774-2	中央一丁目字仲町351	0.5

表 4 街路事業の整理②一般国道 294 号

事業名	事業期間	区 間		延長 (km)
		起 点	終 点	
道路改良事業 川南拡幅 (野上、向田工区)	H7~H18	向田370-2	野上449-1	1.8
道路改良事業 野上	~S56	野上431-2	野上642-2	0.8
道路改良事業 野上	H7~H12	野上703	野上1137	0.7
道路改良事業 南二丁目	H19~H26	野上1139-4	南二丁目3045-2	0.5
歩道美化 中央	~S63	南一丁目12-10	中央一丁目11-17	0.5
道路改良事業 市道旭通り	S40~S48	中央二丁目8-14	野上1197	1.3
道路改良事業 烏山BP(I期)	S58~H5	旭二丁目1449-15	竜田302	1.2
街路事業 中央	S48~S57	中央二丁目1-25	中央二丁目8-24	1.2
道路改良事業 烏山BP(II期)	~H19	竜田301	竜田2013	2.1
道路改良事業 谷浅見工区	H18~H23	谷浅見862-1	谷浅見1062-2	0.6
道路改良事業 大桶工区	H20~H25	大桶上町658-1	大桶字粕五郎内2007-7	1

表 5 市街地整備事業の整理

事業名	事業年	事業主体	面積(ha)	公共用地(ha)	戸数
野上台団地(宅地分譲)	S40年代	旧烏山町	不明	—	約70
泉土地区画整理事業	S48~S50	旧烏山町	12	道路(国)	0.3
				道路(町)	1.9
				公園	0.4
				計	2.6
高峰パークタウン	h10~h14	民間	18	—	273

*本研究は栃木県立烏山高等学校との共同研究として実施した。また、「那須烏山市まちづくり研究会」の活動の一環でもある。